

平成30年度 山形県立置賜農業高等学校学校 学校評価書

<p><b>【学校教育目標】</b></p> <p>1 心身ともに健康で、主体的に逞しく生きる人間を育成する。                  2 豊かな教養と主体的学習の習慣を身につけ、地域社会に貢献する人間を育成する。                  3 勤労を尊び、進んで社会公共のために尽くす人間を育成する。                  4 国際的な視野に立ち、日本国民としての自覚を持つ人間を育成する。</p>
---

<p><b>【めざす学校像・生徒像】</b></p> <p>(1)「いのち」を育み、「こころ」を育み、「ひと」を育む学校                  (2)明るく逞しい置農生、元気・活力・勢いを創り出そう</p>
---

<p><b>【学校経営方針】</b></p> <p>(1)「いのち」をつなぐ人づくり                  (2)「学び続ける」人づくり                  (3)「地域とつながる」人づくり</p>
--

<p><b>達成度</b></p> <p>A : 達成できた                  B : 概ね達成                  C : やや不十分</p>
---

重点目標	具体的取組目標、方策・数値目標	自己評価	成果と課題、次年度へ向けた改善策
<p><b>識・いのちの権者の教育</b></p> <p>① 互いのいのちを尊重する ア 全ての生徒に自尊感情と自己有用感をいじめ0(ゼロ)に ② 基本的生活習慣を身に付け、社会の一員として自覚を深める ア ルールは守り個性を伸長 イ 情報モラルやコミュニケーション力の体得を ③ 主権者意識を高める ア 新聞等を活用し社会情勢に関心をいきまわり守るの大切さ</p>	<p>○ 生徒に寄り添う丁寧で確かな面談の実施 ○ 年2回(6月・12月)のいじめ発見調査アンケート実施に伴う確実な生徒ケア ○ 部活動の活性化 全国大会出場1チーム以上、東北大会出場2チーム以上、県大会出場チーム5チーム以上</p>	A	<p>△いじめの把握に努め、延べ男子7名・女子15名の合計22名を認知した。ほぼ解消され、経過観察を行っている。 ◎男子ホッケー部が2年連続でインターハイ出場を果たし、全国ベスト8の素晴らしい活躍を見せた。また、年末には全国選抜大会に2年連続で出場した。</p>
	<p>○ 法令遵守への対応 ○ SNSの適正な活用指導 ○ コミュニケーション力向上のための取組実施 ○ 登校指導 年11回、生徒の生活、保健・安全に係る講話の実施</p>	B	<p>○交通安全、薬物乱用防止、保健、情報モラル(スマホ・ケータイ安全教室)を実施。 ○全職員による登校指導・校外外挨拶運動を4月から2月まで月2回(年間22日)実施し、服装指導にも重点的に指導。 △各学年ともに生徒指導に力点を置いているが、更に粘り強い指導が必要。</p>
	<p>○ 18才選挙権を受けた本校の取組を実践 ○ 法律や校則など市民として当然を当然に行う態度を育てる</p>	B	<p>○生徒集会において、放課後や休日等の校内における選挙運動及び政治的活動と公職選挙法について説明。 ○2学年生徒対象に選挙管理委員会・明るい選挙推進協議会による選挙講座を実施</p>
<p><b>確かな学力、豊かな心、健康な体の育成</b></p> <p>① 学力の充実・定着と体力の向上をはかる ア 分かるまで取り組む粘り強さと家庭学習を定着 イ 健康な身体づくり ② キャリア教育の充実をはかる ア 計画に基づく組織的かつ系統的な進路指導 イ 学習のつまづきを放置させない授業づくり ③ 能動的な学習(書く・話す・発表する等)の推進をはかる ア 個々の生徒の可能性を拓くHR活動や教科指導 イ 異なる考えを認めながら協働して課題を解決 ④ 個に応じた支援体制の充実をはかる ア 教育相談 イ 特別支援教育</p>	<p>○ 基礎学力定着 ○ 学び直し教材の活用 ○ 個別指導の徹底 ○ 家庭学習時間の確保(通常60分/日 試験週間2時間/日) ○ 図書館だよりの発行など読書の啓発を行う。</p>	B	<p>△基礎学力・学習意欲の低い生徒が多くなっているが、学年・教科担当の指導により、赤点数、赤点保有者数が減少傾向にある。 ○定期試験はほとんどのクラスが65点以上を達成した。 ○テスト前の学習については、各学年の試験前学習会で定着させている。 ○校内授業研究、授業評価アンケートを実施し授業の改善に取り組んでいる。</p>
	<p>○ 低学年からの進路相談の充実 ○ 学習会、進路指導の組織的対応 ○ 企業訪問及びハローワーク等との連携強化 ○ 2学年インターンシップの推進</p>	A	<p>◎1月において、3年生全員の進路が決定。 ○各学年とも年間計画に基づいた進路指導を実施。 ○1学年、米沢商工会議所主催「わくわくワーク」に参加。企業理解を深めた。 ○2学年、インターンシップ(3日間)実施。「インターンシップ前講話」を通して、進路意識を醸成。また、事前面談を通して希望進路とマッチングさせた。</p>
	<p>○ プロジェクト学習の充実・発展 ○ 資格取得実践 ○ 授業や読書等で得た知力を活用したアクティブラーニングの実践</p>	A	<p>○生徒全員がプロジェクト学習に取り組み、展示、スライドで校内発表に参加した。 ◎県のプロジェクト発表において、来年度の東北大会に1本の出場権を獲た。 △資格について、技術講習試験や検定についてはある程度の合格率を維持できているが、国家資格同等やそれに準ずる資格の合格率が著しく低いことが課題である。</p>
	<p>○ 定期的な校内での情報共有と研修実施 ○ 関係機関との連携による実効的な取組推進 ○ スクールカウンセリングの実施(年間28回)、校内の支援体制の充実</p>	A	<p>○スクールカウンセリングを年間28回実施。 ○「思春期の子どものこころと行動の理解」について、外部講師を招聘し職員対象研修会を実施。</p>
<p><b>地域と係わり、地域の期待に応える学校づくり</b></p> <p>① 郷土・地域を理解する ア 地域課題発見・解決実践・成果還元 イ 地域活動への参画 ② 郷土・地域と連携する ア 家庭及び関係機関との情報共有 イ 地域力の活用と感謝 ③ 郷土・地域等に発信する ア Webページの定期更新 イ 学校を取り巻くネットワークの拡大・充実</p>	<p>○ 地域課題解決型プロジェクト学習の推進 ○ ボランティア活動・地域行事への参加(全校ボランティア年2回)</p>	A	<p>○プロジェクト学習を中心に、各部門で関係機関との連携やイベントに参加しながら学習活動を行った。(農協青年部、穀物検定協会、酪農教育ファーム、川西グリーヤ園、置賜総合支庁、高校間連携など。) ○年2回の全校ボランティアを実施し、川西町の地域美化の一助となった。 ○飯豊少年自然の家企画の夏のオープンデーに、昨年に引き続き、生活班及び有志生徒を中心に参加した。</p>
	<p>○ 農業科教員による地域課題、生徒のプロジェクト活動につなげる教員の「一人一研究」への取り組み ○ 「かわにし森のマルシェ」活用など、地域との係わりから本校の魅力を発信 ○ PTA・体育文化後援会・同窓会・期成同盟会等、関係団体との連携、活動の活性化</p>	B	<p>○稲作体験や酪農体験、食育、環境教育などで小学生などとの交流活動が活発であった。 ○「かわにし森のマルシェ」「川西産業フェア」「こまつ市」など地元販売会や置賜管内のイベントへ参加した。 △PTA総会の出席率がここ近年20%に届いていない。総会後の学級懇談会も20%前半の出席である。 ○PTA役員から、マナーアップ運動・列車乗車指導に21名、置農祭PTA模擬店に14名のご協力を得た。</p>
	<p>○ 新鮮な学校情報の提供(置農インフォメーションの発行、毎月のWebページの更新) ○ ホームページの活用した、生徒の学習活動の様子の発信 ○ 学校メールへの対応(置農安心メール) ○ 地域や保護者への授業公開の実施</p>	B	<p>△1日体験入学107名参加、オープンスクール67名参加。共に昨年度より増加した。中学校へのPRポスターを昨年度に続き作成した。 ○置農インフォメーションを2回発行した。 ○教員による中学校訪問を実施し、本校の学科や学習内容・進路状況を理解してもらった。</p>

学校関係者評価
<p>&lt;学習指導に関して&gt;                      ・「マイサポートのおかげで自信がついた」と書かれたものを読んだのが印象に残っている。学び直しは就職等の試験対策等で少なからず生徒のためになっている。                      ・家庭学習や読書習慣については、幼・保・小・中の連携会議でも話題になっている。メディアとの接触時間をセーブする指導と合わせて、指導を継続して欲しい。</p> <p>&lt;生徒指導に関して&gt;                      ・スクールカウンセラーが配置され、いじめ事案へ早期の状況把握や対応がなされている。                      ・「いじめの問題」は各校が抱えた大きな問題となっており、学校だけでは限界がある。家庭、地域、関係機関と密に連携して対応しなければならない。                      ・全校ボランティア活動は、地域との関わりや豊かな心へのアプローチに高い意義がある。                      ・様々な事情を抱える生徒が増えている中で、丁寧な関わりでわかる授業づくりに心がけている先生方の取り組みの姿勢が伺える。</p> <p>&lt;進路指導に関して&gt;                      ・1、2年の保護者に対して具体的な進路の情報提供(準備・対策・可否状況等)の場を設けることで、PTAの参加率が上がるのではないかと。                      ・教育活動に関し、社会人基礎力の養成に視点を置いた基礎学力と基礎人間力の充実が求められており、学校内の自主学習環境の充実、生徒個々の実態に合った能力の向上、進路ガイダンスやインターンシップによるキャリア意識の醸成が肝要である。                      ・生徒の進路決定に至るプロセスを大切に对应しており、進学・就職ともに全員の進路が決まり卒業できることは喜ばしい。多感な時期の生徒達に多くの選択肢の機会があれば可能性が見えてくる。</p> <p>&lt;保護者・地域等との連携に関して&gt;                      ・ウイルスフリーダリア等の研究成果が地域に還元され、またプロジェクト学習を通して関係機関との連携や企画がなされており、今後も大いに期待している。                      ・先進的技術や農業に夢を持てる様な取り組みにもチャレンジして、就農者を増やして欲しい。                      ・より一層の成果を期待するとき、地域や保護者との連携・協働を深めることが実効性を高める一つの決め手であると思われる。学年PTAの参加率が20%台であるのは寂しいような気がする。                      ・地域の小学生との体験活動等の交流活動が活発になってきている。子ども達が農業に関わる機会が少なくなった現在では、大変意義のある貴重な活動である。まさに地域に開かれた農業高校を体現した活動だと思う。                      ・大幅な定員割れを踏まえ、置農の存続が危ういのではないかと。置農の使命は、置農の基幹産業である農業の後継者の育成である。保護者の力を借りて、置農のすばらしさ、優秀さを地域でPRしてもらうことも考える必要がある。                      ・置農には他の学校とは異なり、一人ひとりが活躍できる場面が数多くある。そこに入った生徒達が自信と自覚を培っている様子を見受けることができる。</p>